

## 2. これまでの調査、検討経緯について

釧路湿原集水域の水環境に関連する調査・検討は、これまでも多くの機関により多岐にわたる内容について行われてきた。その主な調査、検討内容とその経緯を次の図 2-1 に、調査の項目及び調査・検討内容の概要を次の表 2-1 に示す。

今後は、これら調査・検討を過不足無く継続して実施し、その成果をとりまとめて釧路湿原集水域の水環境の現状と課題等を把握するとともに、水環境保全のための施策を検討する際の基礎資料として整備することとする。

	H14 年度	H15 年度	H16 以降
1.久著呂川地区	窒素・リン負荷量の現況把握調査		施策の内容の検討 継続的なモニタリング
2.達古武沼	環境調査、地形地質調査、(在来樹育成試験、育苗)		
3.東部 3 湖沼	水質モニタリング調査		
4.茅沼地区	水質浄化実験		
5.湿原全域	地下水調査	地下水調査、地下水環境に関する検討 水・物質移動のメカニズムに関する検討	

図 2-1 水環境保全に関連する主な調査、検討経緯  
( 図中の 1,3,5 は国土交通省、2,4 は環境省が主体となって行っている )

表 2-1 釧路湿原の集水域で実施してきた調査の項目及び調査・検討内容の概要

調査・検討項目	調査・検討内容の概要
降雨量観測 ( S30 年代から順次開始 )	気象庁及び北海道開発局が設置した気象観測所において、自記記録計により 1 時間間隔で降雨量を観測( 設置後しばらくの間は 1 日 1 回の観測 )している。また、気象庁の観測所では、積雪深、日照時間等も観測している。
河川の水位及び濁度の観測 ( S30 年代から順次開始 )	釧路川及び釧路川の主要支川において、自記記録計により 1 時間間隔で河川の水位及び濁度を観測している。また、調査地点によっては毎年流量観測を行い、H-Q 式を求めている。
流砂量及び栄養塩に関する観測、河床材料調査 ( H7 ~ )	調査実施時期、項目及び頻度は調査地点により異なるが、釧路川及び釧路川の主要支川において、平水時及び出水時に浮遊砂、掃流砂及び栄養塩の観測を行い、また、平水時に河床材料調査を行っている。
降雨時排水状況調査、水質負荷収支に関する検討 ( H14 ~ )	久著呂川をモデルとして、洪水時における農地や排水路からの負荷流出状況を現地踏査及び水質調査により把握した。
地下水位観測 ( 湿原全域では H14 ~ )	釧路湿原及びその周辺において、自記記録計により 1 時間間隔で地下水位を観測している。
在来水生植物を使った水質浄化実験 ( H14 ~ )	釧路湿原に生育している水生植物を用いて、温泉排水の水質浄化実験を実施し、野外での応用の可能性について検討している。
東部 3 湖沼の水環境に関する調査 ( H15 ~ ; 断続的には過去にも実施 )	シラルトロ沼、塘路湖及び達古武沼において、水質環境の変化及び水生植物の生育状況の変化を把握するための調査を継続して行っている。
植生調査	数年に 1 回の割合で植生調査を行い、植生分布図を作成するとともに植生の変遷を整理している。
空中写真撮影	国や北海道等により、数年に 1 回の割合で行っている。
測量	釧路川流域において、地区ごとの目的に応じて河川縦横断測量及び平面測量等が行われている。( 空中写真測量も部分的に行われている。 )
地質調査	釧路川流域において、地質分布の把握及び作井等を目的として、ボーリング調査、ボーリング調査孔での原位置試験及び静的・動的貫入試験等が行われている。ただし、湿原の中心部における比較的大深度のボーリング調査はほとんど行われていない。
地形、地質構造に関する検討	研究機関、研究者等が中心となって、流域の地形変化、地質分布及び地質構造等に関する検討が行われている。その成果は、「釧路叢書」及び北海道立地質研究所の「地質図幅説明書」等にまとめられている。

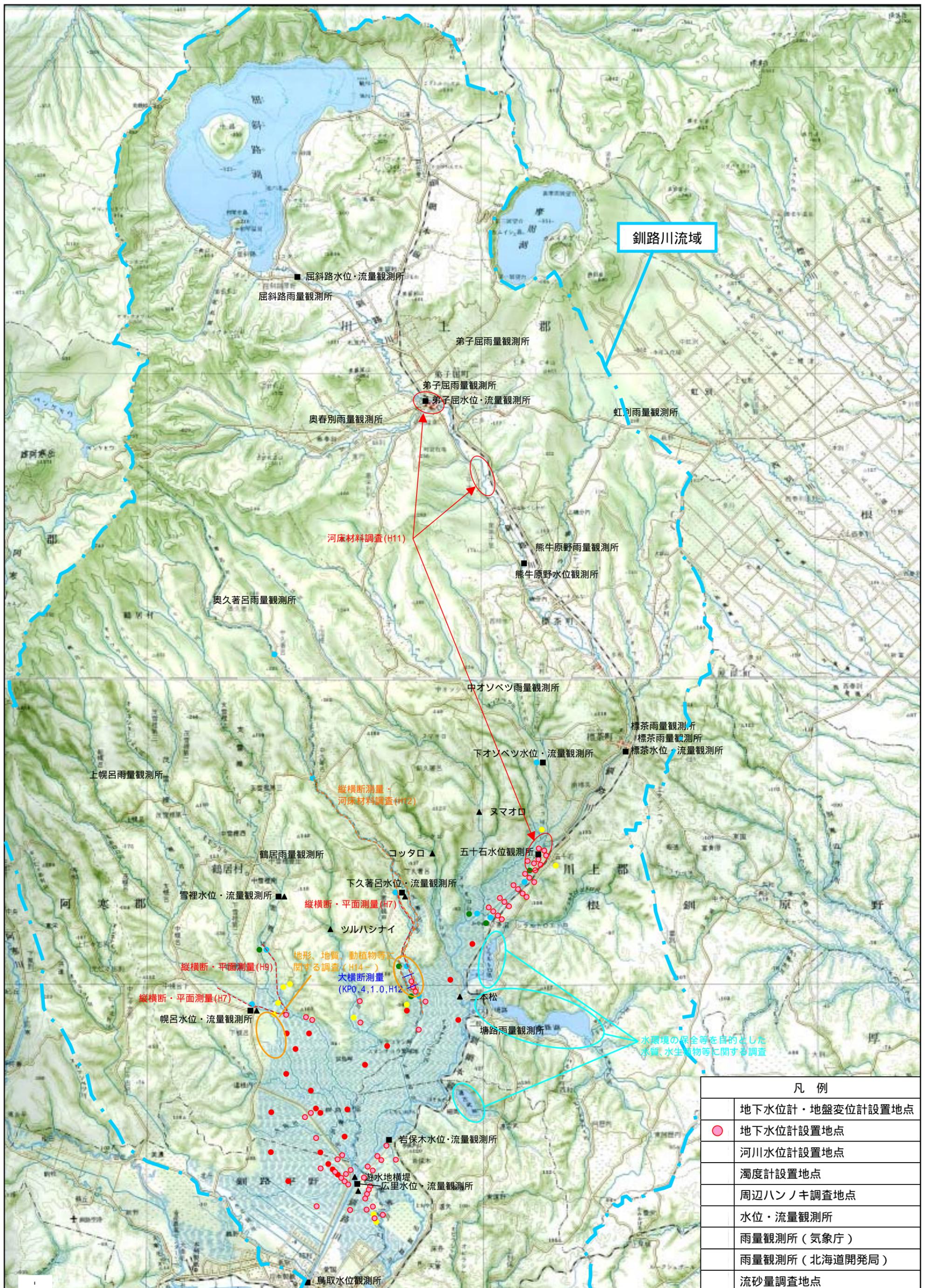


図 2-2 釧路川流域の調査位置図（縮尺：1/200,000）